

新聞を見ても感動する記事が少ない中、母の日の前日の新聞に母に対する気持ちを表現した子供の文言に目が点になりました。小学五年生の女の子は **母の日に** からっぽになる **ちよきん箱**、**七歳の男の子は** **ゆうがた** **おかあさん**と **いちばえ** **いっただ** **お** **かあさん**が **だいじ** **だから** **た** **ぼくは** **おかあさん**の **かげ** **だけ** **ふま** **ない** **である** **い** **だ** **だ** **って** **お** **かあさん**が **だいじ** **だから** **かげ** **まで** **ふま** **ない** **んだ**」少額の中で一生懸命プレゼントを考えている姿が目には浮かびますし、そういえば三歩下がつて師の影を踏まずという言葉があったことを思い出しました。少年少女から菩薩の気配りを頂きました。

友松圓諦師訳の法句経に 意は諸法にさき立ち 諸法は意に成る 意こそは諸法を統ぶきよらかなる意にて且つかたり 且つ行けば形に影のそうごとく 楽しみ彼にしたがわんとか 善きことを作す者はいまよろこび のちによろこび ふたつながらによろこぶ 善きことをわれはなせり」と説かれています。幼少期より規律や道徳心を植え付けて行けば世情が不安定になることはまず無くなることでしよう。

私達は日々暮らしの中で必ず他の力、恩恵を受けなければ生活が成り立ちません。 仕事の同僚 先輩・上司、学校や塾の先生、家庭の子供にあつては兄弟・両親・祖父母。自然界の恵みを受けての食生活、等考えてみれば我々は裸同然です。しかしながら毎日の事と成りますとさほど感謝しません。問題が生じて初めて自分の力では解決できない事に気付くのです。人間はどうも窮地に落ちないと目が覚めないようです。困る事が出来ると言うことは佛が我々に試練を与えて下さるのでしよう。**この世は空ものごとすべてありのままのです。**

生活自体が知らず知らずの内に因縁によって結ばれて行くので 善「なれば善 悪」なれば悪をもたらず事になります。例えば、地上の変化が天を狂わせ自然の災害をもたらしていると思えます。将来に渡って **命の水は**「大丈夫であろうか、心配です。折角開発をしても人口の減少は止まらず、空き家が増え、ひどくなれば家は朽ち、崩れていくのです。我々も形は人間であっても心は菩薩の魂を持ちましょう。忘己利他」の教え、**全ての人間が安心安全に生活できてこそ世界平和が実現できます。** 人間の皮を被った 菩薩」でなければと私は思っています。出来なければ人間の皮を被った「狼」と言う事に成ってしまいます。

親鸞聖人は 煩惱、眼を障えて見たてまつらずと雖も、大悲、倦きことなくして、常に我を照したもう」と言われました。写し出された己の姿が神々しいものでありたいものです。佛と共に暮らす身となれば生活態度もそれなりに改まり汚れなき清らかな心身と成りましょう。宗教が戦の中に埋もれてしまうのは耐えられません。

二十六年六月一日

善壽界善人院油掛地藏尊